氷見都市計画区域マスタープラン(氷見都市計画整備、開発及び保全の方針)

現行（平成 25 年 3 月）	見直し案※赤字が能登半島地震前の変更箇所 青地が今回（能登半島地震を踏まえた）変更箇所
第 2 章氷見都市計画区域	第 2 章氷見都市計画区域
1 都市計画の目標	1 都市計画の目標
1) 都市づくりの基本理念	1) 都市づくりの基本理念
①現況と課題	①現況と課題
<p>本区域は、富山県北西部、能登半島東南部に位置し、富山湾越しに望む立山連峰の勇姿をはじめ、緑豊かな農山村景観、湯量豊富な温泉など優れた地域資源を有する区域である。</p> <p>本区域では日本海側最大の前方後円墳が確認されており、古代の氷見地方は日本海側の重要な拠点の一つであったと考えられている。以降現代に至るまで、富山湾随一の好漁場を背景に、本区域は水産業のまちとして発展してきた。また、昭和 29 年の合併によって全国でもまれな一郡一市が誕生した地域でもある。</p> <p>人口については、昭和 25 年をピークに減少が進んでおり、近年においても用途地域内外とも減少していることから、定住人口の維持が課題となっている。</p> <p>土地利用については、用途地域内では未利用地が多くある一方で、用途地域外における新築動向が用途地域内を上回るなど農村空間の保全が課題となっており、今後、良好な環境の形成に向けた適正な土地利用の誘導が必要となっている。</p> <p>交通基盤については、本区域を南北に縦断する能越自動車道及び一般国道 160 号、本区域を横断して石川県方向に伸びる一般国道 415 号などにより他都市との連絡性が確保されている。今後は、北陸新幹線の開業や能越自動車道の延伸に伴い、産業・観光における交流人口の増加が見込まれることから、さらなる広域的連携を図るため、公共交通を含めた交通ネットワークの構築と、良好な市街地の形成を支える都市基盤の整備が課題となっている。</p>	<p>本区域は、富山県北西部、能登半島東南部に位置し、富山湾越しに望む立山連峰の勇姿をはじめ、<u>緑豊かな農山漁村景観</u>、湯量豊富な温泉など優れた地域資源を有する区域である。</p> <p>本区域では日本海側最大の<u>前方後方墳</u>が確認されており、古代の氷見地方は日本海側の重要な拠点の一つであったと考えられている。以降現代に至るまで、富山湾随一の好漁場を背景に、本区域は水産業のまちとして発展してきた。また、昭和 29 年の合併によって全国でもまれな一郡一市が誕生した地域でもある。</p> <p><u>人口については、平成 7 年から平成 27 年の 20 年間で 58,786 人から 47,992 人に減少し、高齢化率は 21%から 36%に増加している。国立社会保障・人口問題研究所の人口推計(平成 30 年 3 月)では、令和 22 年の人口は、29,471 人、高齢化率は 47%になり、人口減少及び少子高齢化のさらなる進行が予測されている。今後、人口減少や少子高齢化がさらに進行したとしても、都市全体の活力を維持し、それぞれの地域でいきいきと豊かに暮らせるような、持続可能な都市構造を目指す必要がある。</u></p> <p>土地利用については、<u>用途地域に隣接する一般国道 160 号沿道に商業施設などの進出が見られ、稲積・窪・柳田地内ではスプロールが進行している。</u></p> <p>交通基盤については、本区域を南北に縦断する能越自動車道及び一般国道 160 号、本区域を横断して石川県方向に伸びる一般国道 415 号などにより他都市との連絡性が確保されている。<u>一方、北陸新幹線の開業や能越自動車道の延伸に伴い、産業・観光における交流人口の増加が見込まれることから、さらなる広域的連携を図るため、公共交通を含めた交通ネットワークの構築と、良好な市街地の形成を支える都市基盤の整備が課題となっている。</u></p> <p><u>また、令和 6 年能登半島地震では、道路災害による通行止めや避難経路の渋滞などが発生したことから、被災時の確実な避難活動を支える交通基盤の整備が課題として顕在化した。</u></p>
②都市計画の基本理念	②都市計画の基本理念
<p>豊かな自然環境などの地域特性、新たな交通体系の整備などによる交流機会の増大などを背景として、計画的な都市づくりを進めるため、本区域の将来都市像及び都市づくりの基本理念を次のように掲げる。</p> <p>～人 自然 食を未来につなぐ交流都市 ひみ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 便利で快適な質の高い生活ができる都市づくり ○ 安全で安心な都市づくり 	<p><u>本区域の将来都市像の実現に向け、次の都市づくりの基本方針に基づき取り組む。</u></p> <p><u>～里海・里山とまちなかが連携した、魅力と活力ある交流都市ひみ～</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>都市全体を支える『まちなか拠点』と生活を支える『生活拠点』を形成する都市づくり</u> ○ <u>人・物・活動を結ぶ多様なネットワークを形成する都市づくり</u> ○ <u>既存ストックをかしこく使い豊かで安全・安心なまちを形成する都市づくり</u>

<p>○ みんなが集まるにぎやかで活力ある都市づくり</p> <p>○便利で快適な質の高い生活ができる都市づくり</p> <p>道路、上下水道、公園・緑地などの都市基盤整備を推進し、恵まれた自然との共生を図りながら、便利で快適な都市づくりに努める。</p>	<p>○都市全体を支える『まちなか拠点』と生活を支える『生活拠点』を形成する都市づくり</p> <p><u>都市全体を支える「まちなか拠点」と7つの流域に広がる集落の自立した暮らしを支える「生活拠点」が、相互の交流の中で、補完し合い、活力を維持・創出していく必要がある。</u></p> <p><u>生活と観光・交流の中心として、都市全体の発展を牽引する「まちなか拠点」では、子どもから高齢者まで誰もが魅力的で豊かな生活を享受でき、来訪者が氷見にしかない地域の本物に出会え、五感を満足させる体験ができる空間となるよう、既存の資源（公共資産・空き家など）を活用して都市機能の誘導を図る。</u></p> <p><u>流域に広がる集落の生活を支える「生活拠点」では、日常生活が安心して送れるよう、「まちなか拠点」との交流を支える交通機能や、福祉・介護、子育てなどの生活をサポートする機能の充実を図る。</u></p>
<p>○安全で安心な都市づくり</p> <p>防災体制の強化を図り、安全・安心な都市づくりを推進する。</p>	<p>○人・物・活動を結ぶ 多様なネットワークを形成する都市づくり</p> <p><u>まちなか拠点と生活拠点の相互補完をはじめ、地域内・地域間や市外との交流を深めるためには、“人・物”の移動を支える道路・公共交通ネットワークの充実とともに、“人・物”の交流から生まれる“活動”をつなげ、活発化させる仕組みづくりが重要である。</u></p> <p><u>流域に広がる集落と中心市街地の交流を通して住民の豊かな生活を支えるため、地域・交通事業者・行政の連携・協働と役割分担のもと、様々な交通システムを組み合わせた独自の交通ネットワークを構築するとともに、核となる交通結節点の充実を図る。</u></p>
<p>○みんなが集まるにぎやかで活力ある都市づくり</p> <p>観光地の魅力向上やまちなかの賑わい創出、企業立地の推進など産業の振興に努め、活力ある都市づくりを推進する。</p>	<p>○既存ストックをかしこく使い 豊かで安全・安心なまちを形成する都市づくり</p> <p><u>これまでに整備・充実してきた都市基盤や施設（ストック）を適切に維持管理・更新・再編するなどかしこく使い、また、令和6年能登半島地震「氷見市被災者支援・復旧復興ロードマップ」を着実に実行することで、安全に安心して、豊かに暮らせるまちの形成に向けた、成熟型のまちづくりを推進する。</u></p>
<p>2) 地域毎の市街地像</p>	<p>2) 地域毎の市街地像</p>
<p>本区域では、地形上の特性や地域コミュニティ等を踏まえ、区域内を4つの地域に区分し、それぞれ以下のように市街地像を設定する。</p>	<p><u>本区域では、地形上の特性や地域コミュニティ等を踏まえ、区域内を5つの地域に区分し、それぞれが目指すまちづくりの方針を定める。</u></p>
<p>①中部地域</p> <p>J R氷見駅から氷見漁港一帯の中心市街地では、都市再生整備計画に基づき、賑わいのある市街地の形成を図るとともに、中心性・求心力の強い都市機能の集積による拠点形成を目指す。併せて、氷見インターチェンジと中心市街地を結ぶ一般国道415号沿道においては、商業・業務施設などを誘導し、整備が予定される市役所庁舎などの行政施設とともに、本地域にふさわしい都市軸の形成を目指す。</p> <p>中心市街地内の住宅地については、ゆとりある都市型居住環境の創出や、公共交通の利便性の高い、生活に便利な地域を目指すとともに、公園や緑地、漁港、海辺の観光拠点、市街地を流れる河川などを活かし、氷見らしさを演出した市街地の整備を図る。</p>	<p>①中心市街地</p> <p><u>古くから水陸交通の要衝として栄え、今日においても商業や医療・福祉、教育、文化、行政などの様々な都市機能が集積する本市の中心となる地域である。</u></p> <p><u>多様な都市機能のさらなる集積を図るとともに、市内外の交流と活力の創造の核となる「まちの顔」の創出により、市の発展を牽引する賑わいのある地域づくりを進める。</u></p> <p><u>子どもから高齢者まで誰もが歩いて暮らすことができ、若者にとっても魅力的で豊かな生活文化を享受できる地域づくりを進める。</u></p>
<p>②北部地域</p>	<p>②北部地域</p>

<p>能越自動車道氷見北インターチェンジ及び灘浦インターチェンジ周辺においては、北部地域の交通の拠点となることから、新たな都市的土地利用の展開が予想されるため、適正な土地利用の誘導によって無秩序な都市的土地利用の拡散を抑制し、良好な都市環境の形成を目指す。</p> <p>また、能登半島国定公園に指定されている区域では、自然環境の保全に努めるとともに、観光・レクリエーションの場としての活用を図る。</p>	<p><u>本市の北部に位置し、里海・里山の自然環境に育まれた豊かな食があるほか、史跡・名勝や良好な眺望景観など、氷見の様々な魅力を有する地域である。</u></p> <p><u>この恵まれた環境を大切にしながら、里海・里山の集落における歴史や文化、暮らしなどを、未来を担う子どもたちに継承する地域づくりを進める。</u></p> <p><u>また、里海・里山の魅力や恵みを活かすとともに、能越自動車道のインターチェンジ周辺の利便性を活かした土地の有効活用により新たな価値を創出し、これまで以上に多くの交流を促進することにより、北部地域はもとより氷見市全体の魅力の向上や活力を創出する地域づくりを進める。</u></p>
<p>③西部地域</p>	<p>③上庄谷地域</p>
<p>能越自動車道氷見インターチェンジ周辺においては、交通の利便性が高いことから、新たな都市的土地利用の展開が進んでいるため、適正な土地利用の誘導によって無秩序な都市的土地利用の拡散を抑制し、良好な都市環境の形成を目指す。</p> <p>また、山間部においては、自然環境の保全を図るとともに、生活環境の向上のための施設整備を図る。</p>	<p><u>本市の玄関口である能越自動車道氷見インターチェンジが整備され、中心市街地と一体となった利便性の高い市街地が形成されるとともに、里山の豊かな自然や美しい田園風景と共生した集落が広がる地域である。</u></p> <p><u>氷見インターチェンジと中心市街地を結ぶシンボルロードを中心として、本市を印象づける魅力的な環境づくりを進めるとともに、様々な地域資源を活かし、魅力の向上や活力を創出する地域づくりを進める。</u></p> <p><u>また、里山や田園の潤いある環境を大切にしながら、地域の歴史や文化、暮らしなどを、未来を担う子どもたちに継承する地域づくりを進める。</u></p>
<p>④南部地域</p>	<p>④十三谷地域</p>
<p>市街地の周辺に広がる田園地帯については、その環境・景観の保全を図るとともに、点在する農村集落においては、景観を損なうことのないよう、生活環境の向上のための施設整備を図る。</p> <p>また、工業団地が立地している地区においては、緑地の確保に努めるなど、周辺環境と調和のとれた整備を図る。</p>	<p><u>イタセンバラやオニバスなどの貴重な動植物が生息するほか、里山の豊かな自然や美しい田園風景に囲まれた緑豊かな地域であるとともに、県内外の主要都市に最も近接した能越自動車道氷見南インターチェンジが位置し、産業や観光・交流のポテンシャルの高い地域である。</u></p> <p><u>これらの貴重な動植物や豊かな自然環境を大切にしながら、田園風景に育まれたゆとりと潤いのある環境を、未来を担う子どもたちに継承する地域づくりを進める。</u></p> <p><u>また、広域的なアクセス性や豊富な地域資源を活かし、農林業の拠点づくりや工業施設などのさらなる集積を図るとともに、中心市街地との連携強化により、活力の向上と市内外の交流を促進する地域づくりを進める。</u></p>
	<p>⑤西条地域</p>
	<p><u>中心市街地と一体となり、街道沿いに住宅市街地が形成され、交通利便性の高い幹線道路沿いには産業集積が進むとともに、松江江浜の美しい海岸線や、優良な田園が共生する地域である。</u></p> <p><u>利便性が高く、ゆとりある良好な住宅地の維持・充実を図るとともに、田園環境と調和しながら幹線道路沿道における商業施設や工業施設のさらなる集積を図り、活力あふれる地域づくりを進める。</u></p> <p><u>また、美しい海岸線を保全するとともに、海水浴場や海浜植物園、海沿いのサイクリングロードなど、海の魅力を最大限に活かし、観光・交流の促進による賑わいある地域づくりを進める。</u></p>

<p>3) 目標年次</p> <p>本章の基本理念・将来像は、おおむね 20 年後の都市の姿を展望するものとし、目標年次を平成 43 年とする。</p> <p>都市施設の整備などに関しては、おおむね 10 年後の将来を予測するものとし、目標年次を平成 33 年とする。</p>	<p>3) 目標年次</p> <p>本章の基本理念・将来像は、おおむね 20 年後の都市の姿を展望するものとし、目標年次を <u>令和 23 (2041) 年</u> とする。</p> <p>都市施設の整備などに関しては、おおむね 10 年後の将来を予測するものとし、目標年次を <u>令和 13 (2031) 年</u> とする。</p>
<p>2 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針</p>	<p>2 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針</p>
<p>1) 区域区分の決定の有無</p> <p>本都市計画に区域区分を定めない。なお、区域区分を定めないとした根拠は以下のとおりである。</p> <p>本区域の人口は、平成 17 年現在 54,495 人であり、近年用途地域内においても、また用途地域が定められていない、いわゆる白地地域においても減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くものと予想されている。</p> <p>これまで、用途地域内においては、計画的な街路整備等により良好な市街地の形成に取り組まれてきたところであり、白地地域においても、地域にふさわしい建築形態規制の適用などにより、その保全に取り組まれているところである。</p> <p>このように、本区域においては、人口の減少が予想され、今後とも区域内の土地利用の整序を図ることが可能であることから、これまでどおり区域区分を定めないものとする。</p>	<p>1) 区域区分の決定の有無</p> <p>本都市計画に区域区分を定めない。なお、区域区分を定めないとした根拠は以下のとおりである。</p> <p><u>本区域の人口は、平成 27 (2015) 年現在 47,992 人であり、用途地域内においても、また用途地域が定められていない、いわゆる白地地域においても減少傾向にあり、今後もこの傾向が続くものと予想されている。</u></p> <p>これまで、用途地域内においては、計画的な街路整備等により良好な市街地の形成に取り組まれてきたところであり、白地地域においても、地域にふさわしい建築形態規制の適用などにより、その保全に取り組まれているところである。</p> <p>このように、本区域においては、人口の減少が予想され、今後とも区域内の土地利用の整序を図ることが可能であることから、これまでどおり区域区分を定めないものとする。</p>
<p>3 主要な都市計画の決定の方針</p>	<p>3 主要な都市計画の決定の方針</p>
<p>1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p>	<p>1) 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p>
<p>① 主要用途の配置の方針</p>	<p>① 主要用途の配置の方針</p>
<p>豊かな田園環境と都市的土地利用との調和のとれた、健康で文化的な生活環境を確保するため、用途地域をはじめとする規制・誘導により計画的に土地利用の整序を図る。</p>	<p>豊かな田園環境と都市的土地利用との調和のとれた、健康で文化的な生活環境を確保するため、用途地域をはじめとする規制・誘導により計画的に土地利用の整序を図る。</p>
<p>a 商業地</p> <p>氷見駅から氷見漁港一帯にかけて形成された中心市街地などにおいては、まちなか居住を支える商業地として、商業施設の活性化や集積促進を図る。</p> <p>また、既に商業施設等が立地している一般国道 160 号沿道や、氷見インターチェンジと中心市街地を結ぶ一般国道 415 号沿道など、交通便利性の高い地域においては、農林漁業との調和を図りながら、沿道型商業施設の立地・誘導を図るとともに、良好な沿道景観の形成に努める。</p>	<p><u>IR 氷見線氷見駅から氷見漁港一帯にかけて形成された市の中心市街地においては、商業・交流・文化施設などの多様な都市機能が集積しており、市全体の発展を牽引する交流と活力の創造の核となる「まちの顔」として、これまでのストックの改善・充実を図るとともに、中心市街地での賑わい創出や空き家・空き店舗の解消に向けて新規出店支援等を行うほか、新たな魅力を創出する拠点整備や連携を推進する。</u></p> <p><u>また、一般国道 415 号沿道においては、市の玄関口として来訪者をもてなす魅力的なシンボルロードの形成を図るため、計画的な土地利用の誘導を図るとともに、一般国道 160 号沿道では、生活利便施設や沿道サービス施設が既に集積していることから、営農環境や沿道環境との調和を図りながら、都市機能誘導区域との機能分担による計画的な土地利用を図る。</u></p>

<p>b 工業地</p> <p>既存の工業地周辺のほか、氷見インターチェンジ周辺、一般国道 160 号及び一般国道 415 号沿道など、交通の利便性に優れ、かつ居住環境への影響の少ない地区に、今後、農林漁業との調和を図りながら工業地を配置する。また、氷見漁港など海岸部の産業系機能との連携を強化し、工業基盤の充実を図ることとする。</p> <p>なお、工業地周辺においては、環境への影響を考慮して、緑地の確保に努める。</p>	<p>b 工業地</p> <p><u>工業専用地域及び市南部の工業集積地は、産業・経済を支える工業・流通施設が集積しており、効率的な経営が可能となるよう、主要幹線道路から本区域への交通基盤整備などを促進する。</u></p> <p><u>能越自動車道の4つのインターチェンジ（氷見南、氷見、氷見北、灘浦）周辺は、広域的な交通利便性の高い区域であり、田園環境や里山環境の保全に配慮しながら、各インターチェンジの役割や特徴を踏まえ、産業集積や観光・交流の促進などによる本市の新たな活力の創造と、能登半島の玄関口として令和6年能登半島地震からの復興に向け、計画的な土地利用の誘導を図る。</u></p>
<p>c 住宅地</p> <p>まちなか居住を推進するため、用途地域内に住宅地を誘導し、良好な居住環境の形成を図る。</p> <p>また、氷見インターチェンジと中心市街地を結ぶ一般国道 415 号沿道の背後地においては、商業施設等と共存する住宅地の誘導を図る。</p> <p>更に、古くからの集落が中心となって形成されている氷見漁港一帯から海岸線に見られる基盤整備が不十分な住宅地については、土地区画整理事業等の導入を検討するなど、計画的な市街地形成を目指す。</p>	<p>c 住宅地</p> <p><u>生活サービスをはじめ多様な都市機能が集積する市街地に隣接する利便性の高い住宅地を「まちなか住宅区域」とし、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らしやすい良好な居住環境の形成を図り、移住・定住を促進する。住宅地と農地が混在する区域では、民間による開発行などを適切に誘導し、ゆとりある良好な住宅地の形成を図る。</u></p> <p><u>「まちなか住宅区域」を除く用途地域内の「一般住宅区域」については、今後も市街地中心部と近接した利便性を有する住宅として、また、市街地内の農地を活用しながら自然環境と調和した郊外のゆとりある住宅地として、良好な環境を維持する。また、一般国道 160 号から用途地域までの農地と住宅などが混在する区域では、営農環境との調和を図りながら、計画的な住宅地の整備を検討する。</u></p>
<p>②土地利用の方針</p>	<p>②土地利用の方針</p>
<p>a 土地の高度利用に関する方針</p> <p>氷見駅から氷見漁港一帯にかけて形成された中心市街地においては、密集市街地の改善、既存商店街の再生が課題となっているほか、居住人口の誘導が必要となっている。</p> <p>このため、既存商業施設の共同化、居住機能の導入など土地の高度利用について検討し、本区域の中心市街地にふさわしい土地利用の形成を目指す。</p>	<p>a 土地の高度利用に関する方針</p> <p><u>J R氷見線氷見駅から氷見漁港一帯にかけて形成された中心市街地においては、密集市街地の改善、既存商店街の再生、空き家・空き地の発生が課題となっているほか、居住人口の誘導が必要となっている。</u></p> <p><u>このため、「氷見市立地適正化計画」に基づき、公共空地を利活用した公共施設の集約・再編や空き店舗等を活用した新規出店や創業への支援など中心市街地の賑わい創出に関する施策の推進、空き家情報バンクの活用など市街地への居住に関する施策、公共交通に関する施策を推進し、人口減少・少子高齢化社会の中でも、機能性・安全性・利便性の高い持続可能な都市構造を目指す。</u></p>
<p>b 用途転換、用途純化又は用途の複合化に関する方針</p> <p>現在、第一種住居地域及び準住居地域に指定されている区域のうち、工場・倉庫などの混在により居住環境の悪化が見られる地区については、住宅地としての環境保全を図るため、工業地に指定された土地への移転・誘導を促進する。</p> <p>また、用途地域内にあって、未利用地が多く残る地域については、用途地域の見直しを行う等、計画的な土地利用を推進する。</p>	<p>b 用途転換、用途純化又は用途の複合化に関する方針</p> <p><u>用途地域内において、既存の用途地域と、現状の土地利用や今後目指す土地利用方針が異なっている地区（例えば、工業系用途地域内の工場などが他所へ移転し、住宅が多く立地している地区など）では、用途地域を見直し、適正な用途の誘導を図る。</u></p> <p><u>なお、用途地域の見直しにあたっては、農林業などの土地利用との調整を図るとともに、都市計画基礎調査などの結果を踏まえ、人口や開発の動向を的確にとらえ、将来にわたる必要性などを総合的に評価したうえで実施する。</u></p>

<p>c 居住環境の改善又は維持に関する方針</p>	<p>c 居住環境の改善又は維持に関する方針</p>
<p>氷見駅から氷見漁港一帯の中心市街地においては、道路の幅員が十分確保されていないことや密集市街地が存在し、災害時における安全性の確保が懸念されることから、土地区画整理事業等の導入を検討するなど、居住環境の改善を図る。</p> <p>また、市街地においては、地区計画、建築協定などの導入を検討し、今後とも良好な街並みが維持されるよう努める。</p>	<p><u>古くから栄えてきた住宅街では、歴史的なまち並み景観を保全しながら、空き地を活用したミニ再開発や計画的な都市基盤の整備、防災関連施設の機能強化などの防災対策の充実を図る。</u></p>
<p>d 都市内の緑地又は都市の風致の維持に関する方針</p>	<p>d 都市内の緑地又は都市の風致の維持に関する方針</p>
<p>住民のスポーツ・レクリエーション需要に対応し、身近な憩いの場となる既存の都市公園の利用促進に努めるとともに、適正な規模及び誘致距離を考慮し、計画的な公園を配置する。</p> <p>富山湾に注ぐ多くの河川については、都市活動へのうるおいを与え、また、身近な自然環境として重要な空間であることからその保全を図る。</p> <p>更に、能登半島国定公園に指定されている海辺空間の環境・景観の維持とともに、虻が島や九殿浜、松田江の松林の保全を図り、これらの緑の付加価値を一層高めるため、他の観光拠点などと有機的に連携したネットワークの形成を推進する。</p>	<p>住民のスポーツ・レクリエーション需要に対応し、身近な憩いの場となる既存の都市公園の利用促進に努めるとともに、適正な規模及び誘致距離を考慮し、計画的な公園を配置する。</p> <p>富山湾に注ぐ多くの河川については、都市活動へのうるおいを与え、また、身近な自然環境として重要な空間であることからその保全を図る。</p> <p>更に、能登半島国定公園に指定されている海辺空間の環境・景観の維持とともに、虻が島や九殿浜、松田江の松林の保全を図り、これらの緑の付加価値を一層高めるため、他の観光拠点などと有機的に連携したネットワークの形成を推進する。</p>
<p>e 優良な農地との健全な調和に関する方針</p>	<p>e 優良な農地との健全な調和に関する方針</p>
<p>市街地の周囲に広がる田園地帯については、交通網の整備に伴い無秩序な市街化が進展することも予想されるため、建築形態規制の適用などにより新たな宅地開発などを抑制し、農地の保全を図る。</p>	<p>市街地の周囲に広がる田園地帯については、交通網の整備に伴い無秩序な市街化が進展することも予想されるため、<u>今後の開発状況を踏まえながら、特定用途制限地域の指定などの規制・誘導方策を検討し、田園環境や里海・里山環境の保全を図る。</u></p>
<p>f 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針</p>	<p>f 災害防止の観点から必要な市街化の抑制に関する方針</p>
<p>丘陵部には地すべり危険箇所や土石流危険渓流が多くあり、本区域全域には急傾斜地崩落危険箇所が数多く存在している。これら土砂災害危険箇所においては災害から住民の生命、財産を保護するため、対策施設の整備を進めるとともに、土砂災害防止法に基づく土砂災害特別警戒区域の指定等により開発の抑制に努める。</p>	<p>丘陵部には地すべり危険箇所や土石流危険渓流が多くあり、本区域全域には急傾斜地崩落危険箇所が数多く存在している。これら土砂災害危険箇所においては災害から住民の生命、財産を保護するため、対策施設の整備を進めるとともに、土砂災害防止法に基づく<u>土砂災害特別警戒区域等に指定された区域については、</u>開発の抑制に努める。</p> <p><u>また、本区域は上庄川等の流域に位置し、市街地の一部が浸水想定区域に含まれていることから、水災害に強い都市づくりの実現に向け、流域における保水や貯留機能の確保、立地適正化計画の防災指針に基づく取組み等により、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を推進する。</u></p> <p><u>更には、災害対策の観点から、令和6年能登半島地震を受けて、住宅の耐震化や液状化対策などに取り組み、災害に強いまちづくりを推進する。</u></p>
<p>g 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針</p>	<p>g 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針</p>
<p>富山湾岸の変化に富んだ海岸部一帯、石川県との県境を成す丘陵地一帯、河川流域に展開する優良な農地などは本区域の豊かな自然環境を形成しているため、その環境を保全する。</p>	<p>富山湾岸の変化に富んだ海岸部一帯、石川県との県境を成す丘陵地一帯、河川流域に展開する優良な農地などは本区域の豊かな自然環境を形成しているため、その環境を保全する。</p>
<p>h 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</p>	<p>h 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</p>

<p>本区域においては、用途地域内の土地の有効利用を図ることとし、農林業への配慮を行いつつ、必要に応じて用途地域の見直しを行う。</p> <p>更に、白地地域においては無秩序な市街化が進むことのないよう、地区計画、特定用途制限地域などの指定による適正な土地利用コントロールを図る。</p> <p>特に、氷見インターチェンジ周辺においては、新たな都市的土地利用の展開が進んでいるため、適正な土地利用の誘導によって、良好な都市環境の形成を目指す。</p>	<p>本区域においては、<u>原則</u>用途地域内の土地の有効利用を図ることとし、農林業への配慮を行いつつ、必要に応じて用途地域の見直しを行う。</p> <p><u>特に、能越自動車道の4つのインターチェンジ周辺については、田園環境や里山環境に配慮しながら、産業集積や観光・交流の促進などによる、本区域の新たな活力創造と、能登半島の玄関口として令和6年能登半島地震からの復興に向けた計画的な土地利用の誘導を図る。</u></p> <p><u>また、幹線道路沿道などの開発需要については、関連する計画をはじめ、既存の用途地域や「氷見市立地適正化計画」などとの整合を図り、土地利用の規制・誘導方策を検討する。</u></p>
<p>2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</p>	<p>2) 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</p>
<p>2-1) 交通施設の都市計画の決定の方針</p>	<p>2-1) 交通施設の都市計画の決定の方針</p>
<p>① 基本方針</p>	<p>① 基本方針</p>
<p>本区域では、一般国道 160 号が南北方向の広域都市間交通を担う主要幹線道路として市街地の外縁を、また、一般国道 415 号が東西方向の主要幹線道路として市街地の中央をそれぞれ通過している。</p> <p>本区域においては、能越自動車道氷見インターチェンジ、氷見北インターチェンジ及び灘浦インターチェンジが整備され、産業や観光において広域的な交流の促進が期待されている。</p> <p>今後は、インターチェンジと市街地を結ぶアクセス道路の整備、都市の骨格となる幹線・補助幹線道路の配置により、安全で円滑な道路網の構築を図る。</p> <p>また、本区域の公共交通機関としては、鉄道や路線バスなどがあり、区域内にはJR氷見線の氷見駅や島尾駅がある。今後は、これら公共交通機関の維持・活性化を図り、高齢社会に対応した安全で快適な公共交通サービスの確保に努める。</p>	<p>能越自動車道の4つのインターチェンジや一般国道 160 号、一般国道 415 号などの交通ネットワークの整備が進み、広域的な交流促進が期待されている。今後は、一般国道 415 号の県境部の整備やインターチェンジと一般国道 160 号とのアクセス道路などの整備を進め、地域の資産と高規格幹線道路ネットワークを結び、利便性の高い交通網の形成を促進する。</p> <p><u>また、市街地と生活拠点を結ぶ道路の整備・充実とともに、密集住宅地などの狭隘道路の改善や歩行者・自転車にやさしい道路整備などにより、市内の安全で円滑な移動を支援する道路網の整備を推進するほか、海越しの立山連峰、渚百選などの地域資源や富山湾岸サイクリングコースなど、海岸部の道路網を充実させ、イベントを通じた観光・交流支援を推進する。</u></p> <p><u>さらに、今後の交通需要を踏まえ、交通計画やまちづくりにおける必要性、代替道路や本事業の実現性などを総合的に勘案し、都市計画道路の見直しを検討する。</u></p> <p>また、本区域には、鉄道や路線バス、<u>タクシー、NPOバスなどの多様な交通機関があり、今後、地域・交通事業者・行政が連携・協働と役割分担のもと、様々な交通システムを組み合わせた、氷見市独自の公共交通ネットワークの構築や交通結節点の充実を図る。</u></p>
<p>②主要な施設の配置の方針</p>	<p>②主要な施設の配置の方針</p>
<p>能越自動車道については、今後もその整備を促進するとともに、新たなインターチェンジの設置について、整備の必要性や効果等を踏まえながら検討を進める。</p> <p>都市計画道路一般国道 415 号線を氷見インターチェンジと市街地、都市計画道路灘浦インター線を灘浦インターチェンジと区域北部を結ぶ道路としてそれぞれ配置し、産業・観光面を中心に広域的な交流の促進を図る。</p> <p>都市計画道路氷見港鞍川線は、氷見インターチェンジと道の駅「氷見」などの観光施設が立地する氷見漁港とを結ぶアクセス道路であり、また都市間交通の東西軸、市街地内道路の中心軸としての役割も担う重要な路線であることから、シンボルロードとして配置する。</p> <p>また、市街地内の道路については、既存道路網に加え、都市計画道路氷見伏木線などの幹線道路を配置することにより格子状のネットワークを形成し、利便性を高め、市街地の活性化を促進する。</p> <p>公共交通については、氷見駅における駅前広場や都市計画道路氷見駅地蔵町線の整備促進に努め、交通結節点としての機能を高めることにより、氷見市の玄関口としてふさわしい空間</p>	<p><u>区域内外の交流促進に向け、広域的な交通ネットワークである能越自動車道や一般国道 160 号、一般国道 415 号の整備促進とともに、市街地と生活拠点を結ぶ道路の整備・充実を図る。</u></p> <p><u>住民・事業者などとの協働による道路の維持管理や、予防保全型の維持管理による長寿命化により、ライフサイクルコストの縮減・標準化を図り、長期にわたって安全・安心な道路ネットワークの確保に努める。</u></p> <p><u>地域内・地域間の交流を支える移動システムとして、地域・交通事業者・行政が連携・協働と役割分担のもと、流域に広がる集落と市街地を結ぶ支線交通ネットワーク、市街地の利便性を高める循環系交通ネットワークの確立、公共交通困難地域と市街地を結ぶ交通機能の充実など、様々な交通システムを組み合わせた、区域独自の交通ネットワークを構築する。</u></p> <p><u>また、既存施設の多機能・複合化の検討と合わせ、各種交通機関の乗り換えや交流の核となる交通結節点の充実を図るほか、住民が自ら公共交通を“使って支える”意識の啓発や地域ごとの利用促進を進めるとともに、多様な交通機関の維持・活性化に向けた交通まちづくりを推進する。</u></p>

<p>の形成を図る。また、島尾駅においても、利用者の利便性の向上に努める。更に、路線バスやコミュニティバスの利用促進に努め、地域社会を支えていく公共交通サービスの確保に努める。</p>																									
<p>③主要な施設の整備目標</p>	<p>③主要な施設の整備目標</p>																								
<p>優先的におおむね10年以内に整備することを予定する施設は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="403 474 1418 701"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路</td> <td>1・3・1 能越自動車道線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・4・16 氷見伏木線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・5・21 氷見駅地蔵町線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・6・5 氷見駅鞍川線（駅前広場）</td> </tr> </tbody> </table>	種別	名称	道路	1・3・1 能越自動車道線		3・4・16 氷見伏木線		3・5・21 氷見駅地蔵町線		3・6・5 氷見駅鞍川線（駅前広場）	<p>優先的におおむね10年以内に整備することを予定する施設は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="1549 474 2564 789"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>道路</td> <td>1・3・1 能越自動車道線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・4・16 氷見伏木線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・5・21 氷見駅地蔵町線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・6・5 氷見駅鞍川線（駅前広場）</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・5・4 加納稲積線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3・5・6 朝日公園線</td> </tr> </tbody> </table>	種別	名称	道路	1・3・1 能越自動車道線		3・4・16 氷見伏木線		3・5・21 氷見駅地蔵町線		3・6・5 氷見駅鞍川線（駅前広場）		3・5・4 加納稲積線		3・5・6 朝日公園線
種別	名称																								
道路	1・3・1 能越自動車道線																								
	3・4・16 氷見伏木線																								
	3・5・21 氷見駅地蔵町線																								
	3・6・5 氷見駅鞍川線（駅前広場）																								
種別	名称																								
道路	1・3・1 能越自動車道線																								
	3・4・16 氷見伏木線																								
	3・5・21 氷見駅地蔵町線																								
	3・6・5 氷見駅鞍川線（駅前広場）																								
	3・5・4 加納稲積線																								
	3・5・6 朝日公園線																								
<p>2—2）下水道及び河川の都市計画の決定の方針</p>	<p>2—2）下水道及び河川の都市計画の決定の方針</p>																								
<p>①基本方針</p>	<p>①基本方針</p>																								
<p>a 下水道</p>	<p>a 下水道</p>																								
<p>快適な生活環境の形成や公共用水域の水質の保全など重要な役割を担うことから、整備を促進し、早期の完了を目指していく。</p> <p>汚水については、市街地、農山村などその地域の特性に応じた効率的な方法により計画的に処理施設の整備促進を図る。</p> <p>雨水については、円滑な排除を図り、浸水被害の防止に努める。</p>	<p><u>快適な生活環境の形成や公共用水域の水質の保全など重要な役割を担うことから、計画的かつ効率的な維持管理を図る。また、下水道施設の耐震化や液状化対策を計画的に進める。</u></p> <p>汚水については、市街地、農山村などその地域の特性に応じた効率的な方法により計画的に処理施設の整備促進を図る。</p> <p>雨水については、<u>速やかな</u>排除を図り、浸水被害の防止に努める。</p>																								
<p>b 河川</p>	<p>b 河川</p>																								
<p>浸水被害の実績及びその危険性に応じて、各河川や地域の特性を踏まえた治水対策を実施する。また、より快適な河川空間を創出するため、河川環境の整備・保全を図る。</p>	<p>浸水被害の実績及びその危険性に応じて、各河川や地域の特性を踏まえた治水対策を実施する。また、より快適な河川空間の<u>創出や農業の水利施設など産業基盤の維持を図るを創出する</u>ため、河川環境の整備・保全を図る。</p>																								
<p>②主要な施設の配置の方針</p>	<p>②主要な施設の配置の方針</p>																								
<p>a 下水道</p>	<p>a 下水道</p>																								
<p>汚水については、市街地の整備が概成しているため、市街地周辺の整備を主体に進める。また、施設の老朽化により処理機能が低下している施設については設備の更新等を図る。</p>	<p><u>汚水については、市街地の整備が概成している。施設の老朽化により処理機能が低下している施設については設備の更新等を図る。</u></p>																								
<p>b 河川</p>	<p>b 河川</p>																								
<p>各河川や地域の特性を総合的に考慮して、最適な治水施設を配置するとともに、仏生寺川等においては、地域の暮らしや歴史・文化との調和に配慮しながら、生物の生息・生育環境及び</p>	<p>各河川や地域の特性を総合的に考慮して、最適な治水施設を配置するとともに、仏生寺川等においては、地域の暮らしや歴史・文化との調和に配慮しながら、生物の生息・生育環境及び</p>																								

多様な河川景観の保全・創出に努める。	多様な河川景観の保全・創出に努める。								
③主要な施設の整備目標	③主要な施設の整備目標								
優先的におおむね10年以内に整備することを予定する施設は次のとおりである。	優先的におおむね10年以内に整備することを予定する施設は次のとおりである。								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共下水道</td> <td>氷見公共下水道</td> </tr> </tbody> </table>	種別	名称	公共下水道	氷見公共下水道	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公共下水道</td> <td>氷見公共下水道</td> </tr> </tbody> </table>	種別	名称	公共下水道	氷見公共下水道
種別	名称								
公共下水道	氷見公共下水道								
種別	名称								
公共下水道	氷見公共下水道								
2—3) その他の都市施設の都市計画の決定の方針	2—3) その他の都市施設の都市計画の決定の方針								
住民への身近なサービスを提供する教育文化施設や医療施設、健康的で衛生的な生活の実現や循環型社会の構築に資するための供給処理施設などの都市施設について、まちづくりの上で位置づけが必要なものを、都市計画に定めるものとする。	住民への身近なサービスを提供する教育文化施設や医療施設、健康的で衛生的な生活の実現や循環型社会の構築に資するための供給処理施設などの都市施設について、まちづくりの上で位置づけが必要なものを、都市計画に定めるものとする。								
3) 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針	3) 市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針								
①主要な市街地開発事業の決定の方針	①主要な市街地開発事業の決定の方針								
<p>本区域の既成市街地は、住宅、商業、業務の混在地域で木造建築物が密集し、オープンスペースや歩行者空間及び駐車場、道路網などの都市基盤整備が遅れている。</p> <p>このため、今後、市民のニーズや提言などを広く受け、基盤整備が不十分な住宅地については、土地区画整理事業等の面的整備事業を検討するなど、ゆとりある都市型居住環境の創出及び人口の定住促進を図る。</p>	<p>本区域の既成市街地は、住宅、商業、業務の混在地域で木造建築物が密集し、オープンスペースや歩行者空間及び駐車場、道路網などの都市基盤整備が遅れている。</p> <p>このため、今後、市民のニーズや提言などを広く受け、基盤整備が不十分な住宅地については、土地区画整理事業等の面的整備事業を検討するなど、ゆとりある都市型居住環境の創出及び人口の定住促進を図る。</p>								
4) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針	4) 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針								
①基本方針	①基本方針								
<p>富山湾に面する海岸部、富山湾越しに眺望できる立山連峰の大パノラマや、本区域内に広がる緑豊かな丘陵地などは本区域の優れた自然環境・景観であり、後世に継承していく必要がある。このため、無秩序な宅地化の抑制、豊かな自然景観に配慮した開発の誘導などにより積極的な保全を図る。</p> <p>このため、能登半島国定公園に位置する海岸部をはじめ、立山連峰のパノラマを眺望することのできる富山湾岸域については、海辺環境軸として、本区域の丘陵部の裾野一帯は山辺環境軸として、また、十二町潟水郷公園及び仏生寺川一帯は川辺環境軸としてそれぞれ位置づけ、自然環境の整備・保全を図る。</p> <p>更に、ゆとりとうるおいのある豊かな市民生活の実現を図るため、身近に利用できる公園・緑地の整備を推進する。</p>	<p>富山湾に面する海岸部、富山湾越しに眺望できる立山連峰の大パノラマや、本区域内に広がる緑豊かな丘陵地などは本区域の優れた自然環境・景観であり、後世に継承していく必要がある。このため、無秩序な宅地化の抑制、豊かな自然景観に配慮した開発の誘導などにより積極的な保全を図る。</p> <p><u>流域の平野部に広がる田園地域を「田園共生ゾーン」と位置づけ、豊かな自然や優良農地の保全と農村集落の住環境の保全・維持を図りつつ、都市間連携軸などの幹線道路沿道における市民生活の利便性向上に資する都市的な土地利用を適切に誘導するなど、農業を基本とした地域社会と新たな産業が共存・共栄できる取り組みを推進する。</u></p> <p><u>また、海沿いの地域を「里海保全ゾーン」と位置づけ、本区域を特徴づけている貴重な自然環境や景観の保全を図る。</u></p> <p><u>更に、流域の山間部の豊かな自然環境とそれを支える集落からなる山間部を「里山保全ゾーン」として位置づけ、開発の抑制と農地・森林の保全による多面的な機能の維持を図る。</u></p>								

<p>②主要な緑地の配置の方針</p>	<p>②主要な緑地の配置の方針</p>								
<p>a 環境保全システムの配置の方針</p>	<p>a 環境保全システムの配置の方針</p>								
<p>本区域を流れる7つの河川及び能登半島国立公園をはじめとした海岸部、また、本区域の外縁部に位置する石動山などの丘陵地については、生態系の保全にも配慮し、自然環境の保全に努める。</p>	<p>本区域を流れる7つの河川及び能登半島国立公園をはじめとした海岸部、また、本区域の外縁部に位置する石動山などの丘陵地については、生態系の保全にも配慮し、自然環境の保全に努める。</p>								
<p>b レクリエーションシステムの配置の方針</p>	<p>b レクリエーションシステムの配置の方針</p>								
<p>レクリエーションニーズへの対応と良好な都市環境形成のため、氷見運動公園、朝日山公園及びふれあいの森を地域スポーツの振興に資するスポーツ・レクリエーションの拠点として、また、島尾海浜公園は地域住民が身近な自然とふれあえるレクリエーションの場として位置づけ、周囲の環境に配慮しつつ、整備・充実に努める。</p>	<p>レクリエーションニーズへの対応と良好な都市環境形成のため、朝日山公園及びふれあいの森を<u>区域住民の憩いの場として、氷見運動公園を</u>地域スポーツの振興に資するスポーツ・レクリエーションの拠点として、また、<u>十二町潟水郷公園及び島尾海浜公園</u>は地域住民が身近な自然とふれあえるレクリエーションの場として位置づけ、周囲の環境に配慮しつつ、整備・充実に努める。</p> <p><u>また、既存施設の適切な維持管理・更新による長寿命化を図るとともに、地域や事業者などとの協働によるパークマネジメントを促進する。</u></p>								
<p>c 防災システムの配置の方針</p>	<p>c 防災システムの配置の方針</p>								
<p>丘陵地には、保安林指定の区域が各所にあることから、森林の持つ災害防止機能の維持・充実に努める。</p>	<p>丘陵地には、保安林指定の区域が各所にあることから、森林の持つ災害防止機能の維持・充実に努める。</p>								
<p>d 景観構成システムの配置の方針</p>	<p>d 景観構成システムの配置の方針</p>								
<p>富山湾及び雄大な立山連峰の眺望を後世に伝えていくため、その眺望地となる緑地や海岸部を保全する。</p> <p>また、うるおいある都市環境を形成するため、都市公園等と連携しつつ、緑道や散策路を配置し、都市における水と緑のネットワークを形成する。</p>	<p><u>当区域の景観は、農山漁村の伝統的な生産の場や暮らしの仕組みによって生み出される集落景観（谷筋・平地・沿岸部）と、商業や流通の中核地・街道として反映してきた市街地景観に大別され、これが氷見らしい景観を形成している。</u></p> <p><u>将来にわたり、氷見らしい景観を保全・活用し、新たな景観を創造するために策定された「氷見市景観計画」に基づき、建築物・工作物等の景観規制・誘導などを含めた多様な取り組みを推進する。</u></p> <p><u>氷見を代表する景観資源を有し、良好な景観形成に向けた景観誘導を積極的に行う地区については、景観形成重点地区を設定し、地区の特性に応じたきめ細かな規制・誘導を行う。</u></p>								
<p>③主要な緑地の確保目標</p>	<p>③主要な緑地の確保目標</p>								
<p>優先的におおむね10年以内に整備することを予定する主要な公園等は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="403 1688 1421 1782"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合公園</td> <td>5・5・1 朝日山公園</td> </tr> </tbody> </table>	種別	名称	総合公園	5・5・1 朝日山公園	<p>優先的におおむね10年以内に整備することを予定する主要な公園等は次のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="1543 1688 2561 1782"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>名称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合公園</td> <td>5・5・1 朝日山公園</td> </tr> </tbody> </table>	種別	名称	総合公園	5・5・1 朝日山公園
種別	名称								
総合公園	5・5・1 朝日山公園								
種別	名称								
総合公園	5・5・1 朝日山公園								